

# 第五次国有林野施業実施計画書

## 第二次変更計画 (安芸森林計画区)

自 平成 30 年 4 月 1 日  
計画期間  
至 令和 5 年 3 月 31 日

[変更年月 令和 2 年 3 月]

四国森林管理局

## 第五次国有林野施業実施計画(安芸森林計画区)の変更について

### 【変更理由】

以下の理由により、国有林野管理経営規程(平成 11 年 1 月 21 日付け農林水産省訓令第 2 号)第 14 条第 2 項に基づき変更する。

なお、本変更計画は、令和 2 年 4 月 1 日から適用する。

- ① 平成 30 年 7 月に発生した豪雨災害等による林道被害等に伴う、伐採すべき箇所として定められた箇所から林産物の搬出が困難となったことによる、施業群、主伐量、更新量、保育量の変更
- ② 密度調整が必要な林分の見直しによる間伐量の変更
- ③ 平成 30 年 7 月に発生した豪雨災害等による崩壊地等の保全施設の施工箇所の追加
- ④ 試験地の廃止に伴う変更、並びに試験地面積等の訂正

### 【変更する項目】

- 2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量
  - (2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等
  - (3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積
  - (4) 伐採総量
  - (5) 更新総量
  - (6) 保育総量
- 4 治山に関する事項
- 8 その他必要な事項
  - (1) 施業指標林、試験地等

※ 本計画書内に関して共通する注釈

1. 集計表は、単位未満四捨五入により、計と内訳が一致しない場合がある。
2. 下線部は、変更箇所である。

2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha)

施業群		林地面積	取扱いの内容	伐期齢
施業群	スギ分散伐区	913	育成単層林施業 概ね5ha以下	45年
	ヒノキ分散伐区	734	〃 〃	50年
	スギ長伐期	7,577	〃 〃	130年
	ヒノキ長伐期	4,169	〃 〃	100年
	ヤナセスギ長伐期	4,824	〃 〃	200年
	天然ヤナセスギ択伐	500	育成複層林施業	200年
	天然ヤナセスギ長伐期複層林	446	〃 概ね10ha以下	200年
	複層林	1,500	〃 概ね20ha以下	80年
	スギ長伐期複層林	1,407	〃 〃	130年
	ヒノキ長伐期複層林	278	〃 〃	100年
	択伐	2,100	天然林施業	定めない
	ぼう芽分散伐区	135	育成単層林施業 概ね5ha以下	15年
施業群設定外		164		
合計		24,745		

注：施業群設定外は試験地等である。

## (3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群分類	上限伐採面積	備考
<u>通常伐期施業</u>	<u>219</u>	<u>スギ分散伐区</u> <u>ヒノキ分散伐区</u> <u>ぼう芽分散伐区</u>
<u>長伐期施業</u>	<u>619</u>	<u>スギ長伐期</u> <u>ヒノキ長伐期</u> <u>ヤナセスギ長伐期</u>
<u>複層林施業</u>	<u>323</u>	<u>複層林</u> <u>スギ長伐期複層林</u> <u>ヒノキ長伐期複層林</u>
<u>天然林・その他施業</u>	<u>定めない</u>	<u>択伐</u> <u>天然ヤナセスギ択伐</u> <u>天然ヤナセスギ長伐期複層林</u>

## (4) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、ha)

区 分	林 地					林地 以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計		
山地災害防止タイプ	—	3,411 (27)	3,411				
自然維持タイプ	—	—	—				
森林空間利用タイプ	—	729 (5)	729				
快適環境形成タイプ	—	—	—				
水源 涵 養 タ イ プ	スギ分散伐区	67,167	—	67,167			
	ヒノキ分散伐区	44,693	—	44,693			
	スギ長伐期	—	250,468 (2,091)	250,468			
	ヒノキ長伐期	—	145,918 (1,405)	145,918			
	ヤナセスギ長伐期		117,428 (892)	117,428			
	複層林	13,719	27,532 (256)	41,251			
	スギ長伐期複層林	24,312	35,151 (289)	59,463			
	ヒノキ長伐期複層林	5,363	4,522 (38)	9,885			
	天然ヤナセスギ択伐	—	—	—			
	天然ヤナセスギ長伐 期複層林	—	—	—			
	択伐	—	157 (1)	157			
	ぼう芽分散伐区	—	—	—			
	施業群設定外	—	—	—			
	計	155,254	581,176 (4,972)	736,430			
合 計	155,254	585,316 (5,004)	740,570	30,000	770,570	—	770,570
年 平 均	31,151	116,659 (1,004)	147,809	6,000	153,809	—	153,809

注：（ ）は、間伐面積である。

(再掲) 市町村別内訳

(単位：m<sup>3</sup>)

市町村名	林 地				林 地 以 外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量		
室戸市	—	22,669	22,669			
安芸市	29,509	<u>91,205</u>	<u>120,714</u>			
東洋町	17,598	46,801	64,399			
奈半利町	<u>8,271</u>	<u>13,091</u>	<u>21,362</u>			
北川村	<u>56,066</u>	<u>199,337</u>	<u>255,403</u>			
馬路村	<u>43,810</u>	<u>210,825</u>	<u>254,635</u>			
安田町	—	1,388	1,388			
計	<u>155,254</u>	<u>585,316</u>	<u>740,570</u>			

注：臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

(5) 更新総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ°	自然維持 タイプ°	森林空間 利用タイプ°	快適環境 形成タイプ°	水源涵養 タイプ°	合 計
人 工 造 林	単層林造成	—	—	—	—	<u>149</u>	<u>149</u>
	複層林造成	—	—	—	—	156	156
	計	—	—	—	—	<u>305</u>	<u>305</u>
天 然 更 新	天然下種第1類	—	—	—	—	6	6
	天然下種第2類	2	—	—	—	90	92
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—
	計	2	—	—	—	96	98
合 計		2	—	—	—	<u>400</u>	<u>402</u>

## (6) 保育総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合 計
保 育	下 刈	—	—	—	—	<u>725</u>	<u>725</u>
	つる切	—	—	—	—	7	7
	除 伐	—	0	—	—	163	164
	計	—	0	—	—	<u>895</u>	<u>895</u>

注：「0」は、単位未満の数値であることを表す。

#### 4 治山に関する事項

位置(林班)	区分	工種	計画量
1、2、3、10、11、12、13、25、27、 34、35、36、37、38、39、40、42、 1001、1002、1005、1015、1018、 1024、1025、1026、1102、1105、 1107、1109、1112、1121、1122、 1123、1125、1126、1127、1158、 2012、2019、2052、2053、2095	保安林の整備	その他 (森林整備)	568.16ha
[5]、[13]、[19、21]、[51~52]、 [1003~1004]、[1016~1017]、 [1024、1031、1034、1036、 1040]、[1102~1110]、[1129]、 [1148、1149、1150]、[1161]、 [1166、1169]、[2015、2017]、 [2021、2023]、[2029~2033、 2035]、[2038、2039、2041、 2042、2043、2046、2047、2049、 2050]、[2053]、[2057~2059]、 [2064、2070、2074]、[2078]、 [2083]、[2088~2089]、[2091 ~2093、2095]、[2102~2105]、 [2108~2110]、[2117]、[2120、 2126~2127]、[2201~2202]、 [2210]、[2223、2224、2230]	保全施設	溪間工	30箇所 ( <u>319.41ha</u> )
[5]、[17、19]、[32]、[43]、 [1002、1003]、[1008]、[1024、 1026、1034、1039]、[1102、 1104]、[1141]、[1166、1169]、 [2004]、[2015]、[2021]、 [2031]、[2052]、[2064]、 [2099]、[2107~2108]、 [2210]、[2225]		山腹工	20箇所 ( <u>13.65ha</u> )
合 計	保安林の整備	その他	568.16ha
	保全施設	溪間工	30箇所
		山腹工	20箇所
		計	36箇所

注1：林班[ ]の区分は、事業評価の地区単位。

注2：保全施設の計は、溪間工・山腹工で重複する箇所は1箇所として集計した。

注3：災害復旧等緊急を要する場合には、計画箇所以外においても実行可能。

8 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
施業指標林	野川山複層林	平成 4 年	3.75	1029 と 1、と 2	複層林施業の推進及び技術の普及を図るための指標とする。
	和田山択伐	昭和 43 年	44.53	2099 い 1～い 6	ヤナセ天然スギを主体とした択伐施業体系の指標とする。
		昭和 43 年	39.15	2099 ろ 1、ろ 2	
試験地	千本山天然更新	大正 14 年	2.12	2065 は	スギを主とする択伐林に誘導する。
	小屋敷山天然更新	大正 14 年	5.64	2054 は、 2055 に	
	一の谷山スギ人工林収穫	昭和 34 年	1.40	2100 ろ	現在あるいは、将来予想される施業方法によって施業した場合の成長量及びその他の統計資料を収集するとともに、林分構造の推移を解明する。
	西又東又山スギ人工林収穫	昭和 35 年	1.32	2128 ほ 1、ほ 2	現在あるいは、将来予想される施業方法によって施業した場合の成長量及びその他の統計資料を収集するとともに、林分構造の推移を解明する。
	朝日出山高齡人工林成長及び遺伝子保存	昭和 38 年	3.04	2203 に	旧藩造林の成長量を調査、研究するとともに優良遺伝子の保存を図る。
	野川山高齡人工林成長及び遺伝子保存	昭和 38 年	4.16	1027 へ 1、へ 2	
	西の川山ヒノキ天然更新	昭和 52 年	6.72	34 ろ	ヒノキ天然更新技術の確立と林分構成状態、成長過程等の調査研究を行う。
			1.40	34 と	
普当山針広混交林誘導	平成 1 年	3.16	1112 ほ	人工林を活力ある針広混交林へ誘導するための調査研究を行う。	

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
試 験 地	和田山ヤナセスギ 天然更新	平成 16 年	7.55	2098 い	天然スギの純林へ 誘導を図るための 天然更新技術の確 立を図る。
	第 2 世代スギ精英 樹(矢筈谷山)	平成 25 年	0.59	1132 い 61	スギエリートツリ ー(第 2 世代精英 樹)の人工交配に より生産した苗木を 植栽し、エリートツ リーの性能を評価 するとともに第 3 世代精英樹の選抜 を行う。
	第 2 世代スギ精英 樹(谷山北平山)	平成 27 年	0.36	2092 い 1	スギエリートツリ ー(第 2 世代精英 樹)の人工交配に より生産した苗木を 植栽し、エリートツ リーの性能を評価 するとともに第 3 世代精英樹の選抜 を行う。
	安田川山トガサワ ラ更新	平成 27 年	<u>0.08</u>	2227 へ	紀伊半島及び高知 県にしか天然分布 がない絶滅危惧種 (VU)であるトガサ ワラの将来に備 え個体群を維持す る管理手法の確立 を図る。
	大戸山・雁巻山天然 スギ成長動態観測	平成 28 年	<u>1.40</u>	2030 い 1	天然スギの長期的 な森林動態の観測 を行う。

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
遺伝子保存林		昭和 41 年	2.15	2089 に	現存林木の優良遺伝子群を保存し、種子補給源として活用する。
		昭和 42 年	2.83	2089 ほ	
		昭和 43 年	2.50	2222 ほ	
		昭和 44 年	1.69	1028 ち	
		昭和 60 年	2.67	2020 と	
		昭和 60 年	3.09	2053 よ	
		昭和 60 年	3.04	2106 は 1	
		昭和 60 年	1.85	2106 は 2	
		昭和 60 年	0.32	2106 は 3	
特別母樹林	雁巻山スギ	昭和 47 年	20.26	2031 ろ	林業種苗法に基づき指定、優良な種穂の採取に適する樹木集団を優良遺伝子群として育成し、種穂の採取源とする。
	千本山スギ	昭和 47 年	33.22	2067 に、ぬ	
			48.61	2114 い、へ	
次世代検定林		平成 45 年	6.38	1136 に	林木育種により育成された精英樹系統種苗の遺伝的特性を検定するとともに、当該種苗の地域環境に対する適応性を明らかにして、その実用化と育種事業の効率化を図る。
		昭和 46 年 ～ 昭和 47 年	6.65	2227 ほ 1～ほ 5	
		昭和 50 年	1.73	2015 ほ	
		昭和 51 年	1.55	9 と	
		昭和 62 年	0.69	8 ぬ	
		昭和 63 年	0.53	2120 ち内	
		平成 2 年	1.52	1005 わ 2	
		平成 3 年	0.99	2095 ほ内	
		平成 13 年	0.70	1016 に 11	

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
展示林	影地山天然林	昭和 48 年	57.42	2046 い、ろ	天然更新。
	宝蔵山産地別	昭和 10 年	0.14	2117 ろ	ヤナセスギ外、スギ産地別。
モデル林	水土保持長期育成モデル林	平成 12 年	39.76	30 ろ	<u>公益的機能重視の森林施業をPRするため、長伐期施業を推進するモデル林として設定。</u>

注：「野川山除伐作業省力化」試験地については廃止する。